

# 報告ダイジェスト

- ・臨時総会開催のお知らせ (報告1)
- ・東京都社会福祉協議会初任者研修報告 (報告2)
- ・ケアリングマーケット出店報告 (報告3)
- ・渋谷区障がい者週間記念式典 (報告4)
- ・玉井所長のイタリア訪問記～その①～ (報告5)

## 報告1 臨時総会を開催します。

ぱれっとは2023年7月、40周年を迎えました。創業者谷口奈保子から、私に理事長職の引き継ぎが行なわれたのが2012年、翌2013年にはレストランを運営していた株式会社ぱれっとから、南山が事務局長として異動し、現在の事務局体制の基礎が出来上がりました。

この10年余り、福祉業界の動きとしては障害者総合支援法の施行、差別解消法や国連障害者権利条約の批准など、本人主体を始めとした法律の整備が進みました。また、ぱれっと内部に目を向けてみると、大きな変化として、2016年に、行政からの補助金や信用金庫からの借入れ、支援者からの私募債、寄付金などを財源に自社ビルを建設、現在の地へ移転するという一大事業を行なったことが挙げられます。

一方、福祉業界全体が直面する課題も、より多様化、そして深刻化してきています。超高齢化社会に突入して10年以上が経過した日本にあって、「8050問題」(80代の親が50代の子どもの身の回りの世話をする)に象徴される切迫性のある問題が山積し、障がい分野だけのアプローチではなく、介護、生活困窮、居住支援など様々な分野の連携も必要になっています。しかし、絶対的な人手不足によって、その「質」の維持が困難を極め、経営的な観点から、私たちぱれっとも大変

難しい選択を迫られることが増えてきました。

また、2029年には前述の相馬、南山が定年の歳となることもあり、この先の数年は内外の状況を踏まえつつ、次の世代へのバトタッチがメインテーマとなります。経済的にも持続可能な組織であり、利用者ならびにその周辺の方々が、そしてその支援者も皆が生き活きと輝ける組織に向けて、現在様々な改革を検討しています。

そこで、毎年5月に開催されてきた定時社員総会に先立ち、下記の日程で臨時社員総会を開催し、皆様にその内容についてお話をさせていただく機会を設けました。詳しくは2月中に議案書とともにお知らせいたします。なにとぞご出席賜りますよう、お願い申し上げます。(理事長 相馬宏昭)

### ◆◆◆【臨時社員総会】◆◆◆

日時：令和6年3月23日(土)

10:00-12:00

会場：地域交流センター恵比寿

コミュニティホール

※当会正会員(A・B・マンスリー)の皆様に向けて、2月中旬ごろに開催のお知らせならびに議案書を送付します。ご出席ならびに委任状の返信についてご対応をお願いします。

## 報告2 初任者研修受講報告

11月7、8日に行なわれた東京都社会福祉協議会主催の初任者研修に参加しました。この研修は、福祉サービス事業に就いて3年目までの新任職員を対象とし、新卒者または既卒者でコースに分かれ、終日オンラインにて講義やグループワークを中心に実施されました。

### ●グループワークでの学び

研修の目的は自らのキャリアアップの方向性を見出し、組織の一員としての役割やあるべき姿を習得すること、支援員としての基本的な要素を学ぶことでした。その中で現状最も自分に足りていないと感じたことは、福祉サービスの基本的な特性の知識や技術です。今回の研修には、障がい者福祉以外にも児童福祉や高齢者福祉、社会福祉協議会に関わっている職員の方が参加していました。グループワークでは、各職場で経験した事例などの意見交換を行ない、新たな視点や自分の思い込みなどを発見することができました。

### ●福祉サービスの基本

議論になったテーマの1つにサービスの提供者と利用者における情報や知識の共有度が低いことが挙げられました。経済用語では「情報の非対称性」と言われサービスを提供する側の方が多くの情報を持っているために、保有する知識に格差があるということです。支援者は、その状況を把握し、利用者に応じた最善の支援を提供することが求められています。

また、支援を受けるにあたって必ずしも本人や家族からの要望だけではなく、専門家や医療関係者などの外部からの視点

も必要とされています。自分の担当をしている分野や対象者だけではなく、多くの事例を知ることによって、より幅広い支援を提供できることを痛感しました。

### ●コミュニケーションとチームワーク

利用者が安心してサービスを受けるためには職員同士の連携が重要だということに再認識しました。職員によって対応が違っていたり、認識が異なっていたりすると信頼関係や支援に対しての不安を生むこととなります。初任者は特に分からないことが多く、経験も浅い中では一人で対応しようとするのではなく、周りの職員の意見を聞き対応することが求められます。また、現場や職場全体を考えて、他の職員とコミュニケーションを図りながら誰が何を担うのか意識して働くことが組織の一員として大切だと学びました。

そして、東京都や渋谷区の福祉業界で働く仲間ともつながることによって、情報交換がしやすくなり働きやすい環境をつくることができると改めて感じました。

### ●まとめ

2日間の研修で現場から離れ客観的に自分の立場を把握する時間を持つことができ、これからの自分が目指すべき方向やあるべき姿が見えました。外部とのつながりや研修を今後も積極的に行ない、担当している業務の利用者や職員、ボランティアの方がより安心して関われる環境づくりに努めて行きたいと思います。

(たまり場ぱれっと/おかし屋ぱれっと

武井琴美)

**報告3****下北沢ケアリングマーケット出店**

勤労感謝の日である11月23日(木)に、下北沢駅近くのBONUS TRACK（ボーナストラック）にてケアリングマーケットが開催され、おかし屋ぱれっと・工房ぱれっとが出店しました。もう12月も近いというのにこの日は日中上着が必要ないほど暖かい1日となりました。BONUS TRACKでは毎年、11月11日の「介護の日」にちなんで11月の1か月間「ケアリングノーベンバー」と題し福祉の仕事をするスタッフ（＝ケアする人）に焦点をあてたイベントを開催しています。その一環として開催されたケアリングマーケットは、例えば栃木県からは知的障がいを持つ人達とともにワインを製造している「有限会社ココ・ファーム・ワイナリー」のワインが試飲できました。また、株式会社マガジンハウスによる福祉をたずねるクリエイティブマガジン「ここ」が全国の福祉施設からセレクトした「こここなイッピン」として、大阪府の「西淡路希望の家」のバネポーチやエコバッグなどユニークな商品が販売されていました。会場にはお子さん連れの家族や犬のお散歩中の方など、関係者のみならず下北沢の地域に住む方達が多く見えられ終始穏やかな雰囲気の販売会となりました。（おかし屋ぱれっと職員 松本亜沙子）



【美味しいクッキーは  
いかがですか？】

**報告4****障がい者週間記念式典 区長表彰**

12月2日（日）に渋谷区役所で「障がい者週間」記念式典が行なわれました。障がいがあっても、前向きに様々なことにチャレンジして、他の人々の模範となっている方や、障がいのある人の為に多大な尽力をされてきた方などが長谷部区長に表彰されました。

吉井彩香さんはおかし屋ぱれっとでの仕事の他に超短時間雇用で平日の朝、渋谷駅近くのオフィスの清掃や備品管理の仕事にも励んでいます。また、シブヤフロントでも多数商品化されるなど多方面で活躍しています。

吉井さんは、「どの仕事も楽しくてこれからも続けて行きたい」と話していて、おかし屋ぱれっとと清掃の仕事のダブルワークも上手くバランスを取ることが出来ています。両親に見守られる中、他の見本となる自立生活者として渋谷区長にねぎらいの言葉を掛けられ、大きく照れながらも嬉しそうにはにかむ吉井さんでした。

（おかし屋ぱれっと職員 井上ムハンマド）



【表彰状を手に笑顔の吉井彩香さん】



【左. 母の民子さん 右. 長谷部区長】

# 報告5 玉井所長の イタリア訪問記① ～プロローグ～

去る11月、イタリアへおよそ1週間の視察旅行に行きまして。

きっかけは2つあり、1つはぱれっと理事の藤井志保さん（本業でお勤めの会社で人事の仕事をしています）とオンラインで1on1（1対1）のミーティングをする中で「外から刺激をもらう時なのかも知れない」と分析していただいたこと、もう1つは、以前から関わりのある渋谷区内の作業所や、渋谷の街をキャンパスに見立て生涯学習の機会を展開するNPO「シブヤ大学」の仲間からお誘いを受けたことです。この2つが偶然にも重なり、ありがたいことに現場や家族の理解も得られ、実現することとなりました。

ぱれっとつうしんでは、現地で学んできたことを数回に渡りレポートしていきたいと思います。

## ●なぜイタリアへ？

イタリアというと、私は最初「インクルーシブ教育がさかん」、「世界で初めて精神科病院を解体し、患者を社会から隔離する入院が原則禁止された（バザーリア法）」ということくらいしか、福祉に関する知識はありませんでした。ですが今回、ローマ在住の演劇演出家であり、生命や環境、芸術研究の一環としてイタリア各地の自治コミュニティ等の調査・執筆を行なっている多木陽介さんのアテンドと通訳により、非常に内容の濃い勉強の機会となるだろうと期待が膨らんだこと、また国は違えど同じような志を持ち仕事をしている福祉関係者と出会って実情を肌で感じてみたいという動機から、イタリアへ行くことを決めました。

## ●スケジュール

**1日目**夜：ミラノに集合、多木さんと打ち合わせ。

### **2日目**

朝：列車でトリノへ移動。

午前：トリノ北部の地区の家「ヴィア・バルテア」見学、敷地内で同団体が運営するレストランで昼食。

午後：トリノ中心地の地区の家「サン・サルヴァリオ」見学。

**3日目**午前：トリノにある障がいのある人の就労の場「ラボラトリオ・ザンザーラ」見学。

午後：列車でサヴィリアーノへ移動。刑務所演劇を手掛けるグラツィアさんと面会。

**4日目**朝：列車でアレッサンドリアへ移動。

午前：刑務所等で作られた製品を扱う店舗を訪問。アレッサンドリアの地区の家見学。  
昼：就労困難な人が働く近隣のレストランで食事。

午後：薬物中毒者の支援センター見学。

### **5日目**

午前：ファビオさんに私達の取り組みをプレゼン、意見交換。

午後：鉄道会社のストライキにより、同団体と料理交換会をする予定をキャンセルし前倒しでミラノへ戻る。

### **6日目**

午後：ミラノ・カルトゥージア出版見学。

=====

★次回は「地区の家」について紹介していきます。

（おかし屋ぱれっと・工房ぱれっとと所長

玉井七恵）

